

3.11 東日本大震災12カ年

原発推進の岸田政府 を打倒しよう!!

日帝の核武装を阻止・粉碎しよう!

3.11 戦争実行委員会 杉並区下高井戸1-34-9第一センター

GX 法案閣議決定弾劾！ 原発新增設、運転期間延長反対！

岸田政府は、2月10日にGX（グリーン TRANSFOR
MATION）実現に向けた基本方針を閣議決定し、28
日には関連法案を閣議決定しました。

これにより原発の新規建設や増設を進めようとして
います。また、稼動から40年超の高経年原発の再
稼動を積極的に推進し、運転期間から安全審査にか

かる期間などを除外しようとしています。

近い将来、南海トラフ地震など巨大地震の発生が想
定されています。原発を稼動させて事故が起つたら、
また「想定外」だったとして、責任を負担するので
しょうか？

電力不足キャンペーンによる原発再稼動をゆるさない！

世界的なエネルギー供給不足や、地震の影響による
火力発電所の停止などによって、電力不足が喧伝さ
れています。

電力逼迫は、国や電力会社の原発への固執と再生
可能エネルギーの導入不足などが影響しています。ま
た、そもそも大資本をはじめとして今の資本主義社会
における生産性を維持・拡大することを前提として不
足がいわれています。電力多消費の資本主義社会一
資本制生産こそ廃絶が必要です。

また、「脱炭素」を名目に、偽りのクリーンエネルギー

として原発を推進しています。福島第1原発事故に
よって、どれだけの環境が汚染されたか、どれだけの
人が避難を強いられ現在も苦労していることか。ウク
ライナの原発への砲撃は、戦時において核兵器の使
用がなくとも、原発への攻撃により制御不能、原子
炉の暴走、核爆発、放射能汚染の危険性があること
を示しています。原発の危険性と事故被害の甚大性
は明らかです。

東海第2原発をはじめ、原発再稼動を阻止しよう。
すべての原発を廃炉に。

国は原発事故の責任を認めろ！ 健康被害を認めろ！

福島第1原発の廃炉への見通しはたっていません。「核のゴミ」をどうするのか、最終処分場も決まって

いません。核燃サイクルは破綻しています。原発を動かすことや廃炉作業による労働者への被曝労働が強要されています。

最高裁は昨年6月、福島原発事故に関して、国の責任は認めないとする判決を出しました。裁判所も規制委員会も、「国策」としての原発推進にお墨付きを与えています。

また、福島ではこの12年で300人を超える子どもの甲状腺がんが見つかっています。当時福島県の18

歳以下の子供は38万人です。100万人に1~2人といれるがんで、スクリーニング検査、過剰診断の影響などとも言われますが、明らかに多すぎます。現実に手術を何度も受けざるをえなくなり、苦しみ続いている子どもたちがいます。この声を聞かなくてはならないと思います。しかし、国はこれを原発由来だと認めようとしません。政府や電力会社は原発による被害をなかつたことにしようとしています。

避難者の住宅追い出しをやめろ！

原発爆発事故から12年たった今でも、原子力緊急事態宣言は継続中です。放射能汚染、原発の危険は続いています。

今なお、ふるさとに戻ることができず、多くの人が避難を余儀なくされています。その避難者の住宅からの追い出しが強まっています。福島県に続き、東京都

からも避難者が不当にも提訴されるという事態となっています。事故の責任は誰にあるのか、東電や国・自治体が被災者をさらに追い詰めることなど許されるはずがありません。追い出しをやめろ。原発被災者・避難者と連帯して闘おう。

東電は汚染水の海洋放出をするな！

政府・東電は、「関係者の理解なしに、いかなる処分も行わない」と地元住民に説明してきたにもかかわらず、今年の夏にも放射性物質トリチウムを含んだ汚染水を海に放出しようとしています。

福島の人たちの生活と命を奪い、福島の海(世界につながる海)や大地を再び汚染させる汚染水放出を許してはなりません。

ウクライナ戦争1カ年、核戦争の危機は継続している！

ウクライナ戦争開戦から1年がたちました。このなかで繰り返される原発砲撃・電源喪失などにより原発の危険性が明らかになっています。さらに戦争における核兵器使用恫喝が続いています。

これに乗じて、政府・自民党は、核シェアリングや「台湾有事」をあり、改憲、自衛隊ミサイル配備、敵基地攻撃能力の保有へと軍拡の道に進んでいます。日帝の原発推進政策の根幹には、核保有潜在力保持・核武装があります。岸田政府は核兵器禁止条約にも否定的で敵対しています。

また、韓国大統領・尹錫悦(ユンソンニヨル)は、1月に「戦術核兵器の配備」や「独自の核武装」が必要との考えをしめしました。核拡散・核武装が進行しています。

5月のG7広島サミットは、核拡散、戦争会談、ウクライナ武器支援拡大を確認する場として進められようとしています。帝国主義による核独占・恫喝・使用をゆるさず、核戦争粉碎、核廃絶に向け闘いましょう。

被爆者との連帯をかけ、反戦・反核闘争を闘おう。